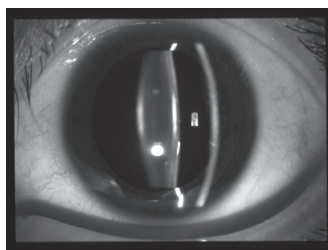


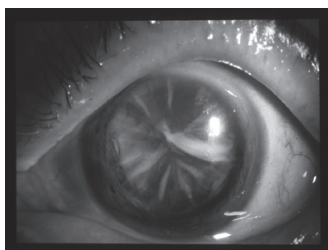


老人性白内障について

老人性白内障とは、加齢に伴い、目の中にある水晶体が白く濁る病気です(図1)。加齢に伴い誰にでも起こりうる病気です(図2)。水晶体はカメラのレンズのような働きをして、光を集めて網膜に焦点を合わせ、外界のものを鮮明に見ることを可能にしています。しかし、白内障になるとこの水晶体が濁ってしまうため、光がうまく網膜に届かず、視力低下や見え方の変化といった症状が現れます。

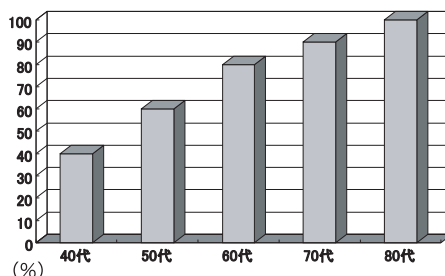


正 常



白内障 (図1)

年齢別罹患率 (図2)



白内障の症状

- ・視力低下: 物がかすんで見えたり、ぼやけて見えたりします。
- ・眩しさ: 太陽の光や蛍光灯の光など、強い光がまぶしく感じられます。
- ・重なって見える: ものが二重に見えたり、三重に見えたりする症状もみられます。

これらの症状は、初期の段階では軽度で、日常生活に大きな支障がないこともあります。進行するにつれて症状が悪化し、日常生活に支障をきたすようになってきます。

治 療

白内障が進行し、視力低下が日常生活に支障をきたすようになった場合、手術による治療が一般的です。濁った水晶体を除去し、代わりに人工のレンズ(眼内レンズ)を挿入する手術をおこないます。当院では、現在2泊3日の入院で手術をおこなっております。早期に発見し、適切な時期に治療を受けることで、より快適な生活を送ることができます。

その他、目に関する症状は多くあります。気になる症状がある場合は、早期に眼科の受診をおすすめします。詳しくは、眼科へお問い合わせください。

お問い合わせ：眼科外来 TEL：0721-24-3100 (代表)